

「研究大学強化促進事業」中間評価 進捗状況概要 慶應義塾大学

目的: 慶應義塾は、「実学(サイエンス)」の精神に基づき、学際的・国際的な研究を行い、広く社会に貢献することを建学理念としています。本事業により「慶應義塾型URA群」による研究推進・支援体制を強化し、世界トップレベルの研究大学を目指します。

今後5年間の将来構想:

将来ビジョンに「世界の学界をリードし、国内外から優秀な学生・研究者が集まる学塾へ」を掲げ、研究力強化のための4施策を実行する。

長寿・安全・創造の融合研究クラスターを中心とする研究プロジェクトの実効化可視化

国際融合研究の支援 → 学内融合から学外へと展開(オープンイノベーション拠点)

- ・研究者情報データベースを拡充し、学内研究情報の流通を促進
- ・研究者交流のためのイベント開催など、URAによる学内マッチング活動の実施
- ・各種学内研究助成制度の改善と拡充により、研究領域の視野拡大と融合研究の推進

国、セクター間の垣根を越えた人材交流や国際研究連携拠点の設置促進を活性化

国際共同研究の支援 → 国際的な共同研究を強化・拡大

- ・海外研究者との交流企画をURAがアレンジする体制を整備
- ・URAが海外研究機関との連携交渉や研究者の研究連携活動を積極的にサポート
- ・海外研究者、留学生受け入れに伴うルール整備

国際的にインパクトのある論文・著作の執筆を促進、国内外でのサイテーション向上

国際論文投稿と被引用件数の向上 → 国際共著論文数の増加

- ・若手研究者への海外論文投稿支援の充実
- ・クロスポイントメント制度による海外副指導教員との共同研究拡大
- ・社会的にインパクトを与える人文・社会科学系の研究成果の評価、学内指標の策定、英文出版支援

知財戦略を確立し、研究成果の事業化・産業化を促進

産学官連携、技術移転の促進 → 研究成果の技術移転の促進

- ・民間企業からの共同研究・受託研究費受け入れの増加
- ・インキュベーション支援体制を産業界との協働で強化
- ・産学官連携研究受け入れに関する各種規程、大学発ベンチャー起業に関する各種規程等を整備

これまでの実績・取組状況:

「研究大学」としての自覚と責任の全学的浸透 / 新しい職種=URAの役割に対する理解と、全学的な協力体制の構築



研究活動を飛躍的に発展させるための5本の柱

Aメニュー

- ・専門員URAを11名雇用し、自主財源での雇用も含め、全キャンパスにURAを配置
- ・知財担当専門員と連携推進担当専門員の協働による研究の入口から出口までの一貫した支援
- ・専門員と専任職員との協業により、互いの業務を補完し、URAとしてのスキルを向上
- ・専門員URAの評価制度の整備と多様なキャリアアップの実現

Bメニュー

- 【研究者支援】 若手研究者向けセミナー、育児支援、国際学術論文掲載料補助等
- 【広報機能の強化】 研究者情報データベース整備、研究プロジェクト紹介動画の配信等
- 【国際連携機能の強化】 20の海外研究連携拠点形成、海外研究機関でのURA実務研修実施
- 【インキュベーション支援機能の整備】 ベンチャーキャピタル(KII)の設立
- 【管理、運営業務の整備】 研究資金管理システム構築、研究受入に伴う各種文書の整備等

中間評価結果

評点区分: B

全体に対する所見

URA のスキルアップ方策による成果が創出されている一方で、多くの事業を並列して行う中での本事業の関わりが明確に整理されておらず、本事業による成果、これまでに達成した計画と課題の顕在化が必要と考えられる。URA 確保に係る財政基盤の方策策定も含めた、今後の戦略の具体化が求められる。

当初構想・計画の進捗状況に対する所見

URA の組織内の位置付けが明確なものとなっておらず、URA の組織化やキャリアパス等の処遇を整備することが必要と考えられる。URA に期待する役割を整理し、研究力強化に向けた効果的な活用が期待される。

今後5年間の将来構想に対する所見

URA のキャリアアップ、能力向上への取組を積極的に行い、事業終了後の URA の処遇を念頭に置いた取組の検討が必要と考えられる。